

---

# 遊戲王 Speedcross

slipstream

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戲王 Speedcross

### 【Zコード】

N9264Z

### 【作者名】

slipstream

### 【あらすじ】

チーム5d、sと未来人との戦いから数十年後、ライディングデュエルは大きな進化を遂げた。Dホイールから実車型のDRW（Duel Racing Wheel 通称ドロウ）に乗り込み、時速300キロオーバーのデュエルの領域に迫る！

## プロローグ（前書き）

文法の使い方など不慣れなところもありますがご了承ください。序盤は遊戯王キャラとオリキャラですが話が進むとクロスオーバーになりますのでそこら辺もご了承ください。それではよろしくお願ひします。

## プロローグ

俺の名前は空見

遊英。

ちよづじゅう歳。

デュエルが好きだった親父が名づけた名前で、デュエルなどで英雄になつてほしいという願いが込められている。

俺は今、DRWのチューニング（車を改造すること）にはDRWを改造すること）ショップで働いている。客もそこそこ来るから休む暇はない。役に立ててうれしいと思うと心が満たされる。だが、そんなことでは完全に心が満たされるわけではない。デュエルはもちろん、レーシングデュエルをすることが俺の楽しみでもある。

レーシングデュエルは従来のライディングデュエルとは全く違う。ルールは基本的に従来と同じ。スピードワールド×という専用のフィールド魔法発動のもとデュエルを行う。変更点は、スピードカウンターがMAXで12個から15個まで溜まるようになった。スピードカウンターを2個取り除くことで自分モンスター1体の攻撃力を200ポイント上げる（エンドフェイズまで有効）、5個で自分の手札のスピードスペル（SP）の枚数×300ポイントのダメージを与える、7個でデッキから1枚ドロー、10個でフィールド上のカードを一枚破壊、15個でデッキから2枚ドローという効果がある。当然、レーシングデュエル中はSPしか使用できない。

これが俺の愛車の黒のR35 GT-R（もともと俺の親父のDRWだが、俺が18歳の誕生日のときに病気にかかり、最期にこのGT-Rを託し、この世を去ってしまった・・・。そのとき俺は絶望したりもした。だが、いつまでも絶望なんてしてはいられない。未来を見ていきていかないとな。それに、天国の親父にも失礼かな）。スピードメーターなどはなくモニターがある。ドライブモードになればメーターは表示される。デュエルモードでは、ヘルメッ

トに付いていいるマイクでやりたいことを言うとそれに反応してカードをプレイしてくれる仕組みだ。カードを伏せる場合は、ヘルメットが脳をスキャンし、何をしたいかを識別する。レーシングデュエルの際には中にある「デッキホルダー」に「デッキを入れ、デッキ」とスキャンし、そのカードを使用できるようにする必要がある。エクストラデッキのカードもエクストラデッキホルダーに入れてスキャンすればそれらも使用できる。スタンディングデュエル用の「デュエルディスクはトランクに装備されている。ハイブリッド式。

「空見、もう今日はあがつていいぞ。」  
「はい、店長。失礼します。」

8時半になる。早く家に帰る。母は遠くで働いていて戻ることはない。かえってまずは飯を食べる（調理くらいはしたことある…）。その後風呂に入り、疲れたから寝るかと思いきや、10時ぐらいに外へ出て、DRWに乗り、ハイウェイへ行く。夜のハイウェイは景色がよくて、疲れも取れる。後ろからセキュリティの車両が通りかかる。

「なんだ、またハイウェイに居たのか。」  
モニターに相手の顔が映る。セキュリティの牛尾だ。夜のパトロールのようだ。この人とはよく会う。

「うん、やっぱり夜のハイウェイはきもちいいからな。」「お前もDRWでのドライブが好きなんだな。遊星みたいだな。」「それもそうだけど、俺としてはレーシングデュエルが一番好きだ。」

「まあお前の気持ちは分かるが、せいぜい事故起こさないよう気をつけろよ。」「ああ。」

牛尾との会話を終え、十分に走つたところでハイウェイを降りる。

そんな中、一人の民間人が一人のチンピラに絡まれているのを見かける。

「おい！やられたくなれば俺様につよいデッキよこせよー。」  
「それは・・・、できません・・・。」

今すぐにDRWから降りて、チンピラを止めにかかる。

「おい、そこでなにやつてんだよ。」

「ああ、誰だあお前？」

「まずはその人を放してやれ。」

「やだね、強いデッキをもらつてもないのにはなせるものか！」

「デュエルしろ。俺が勝つたら一度とその人に関わるな。」

「はん、上等だコラ。俺が勝つたら貴様のデッキをいただくからな

！」

「いいだろう、ハイウェイに出る。」

二人はハイウェイに出た。まさに戦いの火蓋が機つて落とされようとしている。

22:40 ハイウェイ

「「スピードワールドX、セットオンーー！」」

デュエルモード オン

「「レーシングデュエル、アクセラレーションーー！」」

続

## プロローグ（後書き）

いかがでしたでしょうか。変なところも最初はありますがあ coppiaしを。不定期更新ですがよろしくお願いします。

## Act 1 レーシングデュエル（前書き）

ここからオリキャラとオリカが登場します。LP表示など間違えていたらごめんなさい。またSPCは5d/sと同じ増え方です。また、レーシングデュエルなのでDホイーラーからレーシングデュエリストという呼び方になります。

## Act 1 レーシングデュエル

「ニューステージ篇」#1 スタート

「レーシングデュエル、アクセラレーション！」

二人はデッキをDRWに内蔵されているデッキホルダーにセットしました。

俺のDRWのモニターにはデュエリスト情報が写っていた。名前はマイケルだ。先行後攻の決め方は先に第1コーナーを抜けた者が先行だ。2台のDRWはドリフトでコーナーに差し掛かる。遊英が先に第1コーナーを抜けた。遊英が先行だ。

「俺のターン！」

遊英 SPC1 手札6

「俺はダーク・エルフ・ブレーダーを召喚！」

ダーク・エルフ・ブレーダー（オリジナル）

ATK1400 DEF1200 閻 戦士 星4 効果

このカードが召喚に成功した時、

デッキからレベル4以下の闇属性モンスター1体をゲームから除外できる。次の自分のスタンバイフェイズ時にこの効果で除外したカードを手札に加える。

「俺はダーク・グレファーをゲームから除外する。カードを2枚セットし、ターンエンド。」手札3

次はマイケルのターンだ。「俺様のターン。」

「俺様はスマート・ドラゴンを召喚ー。」

スマート・ドラゴン（オリジナル）

ATK1500 DEF1300 閻 ドラゴン 星4

効果

このカードが破壊され墓地に送られた時、デッキから「スマート・ドラゴン」1体を守備表示で特殊召喚できる。

「バトル！スマート・ドラゴンでダーク・エルフ・ブレーダーを攻撃！スマートブレス！」

「くつ」

遊英 LP3900

「カードを1枚セットしてターンエンド。」手札4 セット魔・罷1枚

「お前のエンドフェイズに罷発動、闇の門！」 セット魔・罷 2

1枚

闇の門（オリジナル）

通常罷

自分フィールド上にモンスターが存在しない時、1000ライフポイントを払つて発動する。デッキからレベル4以下の闇属性モンスターを特殊召喚する。

遊英 LP2900

「俺はダブルコストンを守備表示で特殊召喚する。」

ダブルコストン DEF1650 閻 アンデット 効果 闇属性  
モンスターのアドバンス召喚時に2体分のリリースとして扱える。

「そして俺のターン。」

遊英 SPC3 手札4枚

「俺はダブルコストンをリリース。こいつは闇属性のアドバンス召喚のためにリリースするならこいつ1体で2体分として扱うことが出来る！墮天使ゼラートをアドバンス召喚！」

マイケルはにやけた。おそらく罷だろ？。

「へつ、かかったな！トラップ発動、奈落の落とし穴！攻撃力1500以下の各種召喚時にそのモンスターをゲームから除外する！」

「（すまない、ゼラート。）俺はカードを1枚セットしてターンエンド！」手札2枚

「俺様のターン！ふん、さあ、いくぞ！俺様はスマート・ドラゴンをリリース！デスマーム・ドラゴン！」手札5 4枚 SPC4

デスマーム・ドラゴン（オリジナル）

ATK3000 DEF1800 閻 ドラゴン 星7

このカードはリリース1体でアドバンス召喚することが出来る。この方法で召喚した場合、このターンのエンドフェイズ時に破壊される。1ターンに1度、相手の「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つモンスター効果の発動を無効にして、破壊することが出来る。

「デスマーム・ドラゴンでプレイヤーにダイレクトアタック！」

「罠発動、聖なるバリア ミラーフォース！ 相手の攻撃宣言時に相手攻撃表示モンスターをぜんめつさせるぜー！」

またマイケルはにやけた。ここを防ぐ罠があるとこうのか。

「馬鹿だな、カウンター罠発動。防御禁止令！」

防御禁止令（オリジナル）  
カウンター罠

手札を1枚捨てる。攻撃宣言時に発動した魔法・罠・モンスター効果の発動を無効にし、破壊する。

マイケル 手札3枚

「…………」

遊英 LP100

「どうしたあ、最初はえらそうにしておいてたいしたことねえなあ。つて何でだ！なぜライフが100残っているんだあ！」

「俺は罠を発動していた。神の奇跡！」

神の奇跡（オリジナル）

通常罠

相手モンスター1体の直接攻撃によつてライフがゼロになる場合、ライフポイントは100残る。

「ちつ、俺様はこれでターンエンドだ。エンドフェイズにデスマームは破壊される……。」

遊泳はピンチに陥つてしまつた。次のドローですべてが決まる。

「（デッキよ、カードよ、俺はお前たちを信じてる。俺の心に応えてくれー）俺のターンー！」

手札3枚 SPC5

「（ちつ、まだ分からぬか。だがこのカードに賭けるしかない。）  
俺はスピードスペル、エンジェル・バトンを発動！」

Sp エンジェル・バトン

魔法（スピードスペル）

スピードカウンターが2以上ある時、デッキからカードを2枚ドロイし、手札を1枚墓地に送る。

「エンジェル・バトンの効果で2枚ドロー！」手札5枚  
果たして望みのカードはくるのだろうか。

「（来たか！ありがとう！）俺はエンジェル・バトンの効果でキッズデビルを墓地に送る。」手札4枚

キッズデビル（オリジナル）

ATK500 DEF500 閻 悪魔 星3 効果

このカードが墓地に存在する場合、このカードをゲームから除外することと、デッキから「キッズデビル」1体を特殊召喚する。「キッズデビル」の効果は1ターンに1度しか使用できず、「キッズデビル」の効果によって特殊召喚されたこのカードがシンクロ素材のために墓地に送られる、またはエクシーズ素材から取り除かれる場合、ゲームから除外される。

「俺はキッズデビルを除外し、デッキのキッズデビルを特殊召喚する！」

「そんな雑魚を出して何が出来るんだあ、坊やあ。」

「お前は雑魚なカードがないことをしらないのか？なら見せてやるよ。スピードスペル スピード・ランクアップをキッズデビルに装備！」

### S p スピード・ランクアップ

#### スピードスペル

スピードカウンターが3以上ある時、このカードはモンスター1体の装備カードとなり、装備モンスターのレベルを3上げる。キッズデビル LV3 6

「俺はまだ召喚をしていない。ゾンビキヤリアを召喚！」手札3枚

#### ゾンビキヤリア

ATK400 DEF200 閻 アンデット 星2 チューナー  
このカードは手札のカード1枚をデッキの一番上に戻し、墓地から特殊召喚できる。そうした場合、フィールドから離れるとき、ゲムから除外される。

「レベル6のキッズデビルにレベル2のゾンビキヤリアをチューニング！希望の光が集まりしどき、まばゆい光が勝利の闇へと変える。シンクロ召喚！ いでよ、ダークエンド・ドラゴン！」

### ダークエンド・ドラゴン

ATK2600 DEF2100 閻 ドラゴン 星8 シンクロ・

#### 効果

闇属性チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上1ターンに一度、このカードの攻撃力を500下げることで相手のモンスター1対を選択して墓地に送ることが出来る。

「さらにスピードスペル、ソーサク・バースト発動！ダークエンド・

「ドライブ用に使用する！」

S p ソニック・バースト

スピードスペル

スピードカウンターが5以上あるとき、手札を全て捨ててスピードカウンターを全て取り除いて発動する。モンスター1体の攻撃力は1500ポイントアップする。 ATK2600 4100

「そ、そんなあ。攻撃力が一気に4100に上昇しやがつただとお！？」

マイケルは遊英の見事なコンボに驚きを隠せないようだ。

「終わりだ！ダークエンドドラゴンでダイレクトアタック！・ダークフォッシグ！」

「ぐあああああっ！」マイケル

決着はついた。2台は停車し、DRWを降りた。そこでマイケルは疑問を抱いた。

「なぜだあ、この強いデッキばかりを盗んで合体させて作った俺のデッキがなぜこんな野郎に・・・。」

そして、遊英は答える。

「ただ強いカードだけでは勝てやしない。というよりもカードは持ち主にしか応えてくれない。カードを盗んで最強になろうとする奴はレーシングデュエリストなんかじゃない！」

そう言い残してこの場を去るのだった。

翌日 某所

「あなたはこの間の。昨日はありがとうございます。あの人捕まつたらしいですよ。」

「礼には及ばない。もう奴はお前に関わることはないだろ？ カードを盗んで強くなろうとする奴はレーシングデュエリストなんかじゃないときっぱり言ってやつたぜ。」

「本当にありがとうございます。」

「じゃ、俺は行くからな。またな。」

スタンディングデュエルにしろレーシングデュエルにしろ、

自分のカードを信じて戦うのはデュエリストの使命だ。

あきらめたらここで終わりなんだ。

人のカードを盗んで強くなろうとするのは決して無理だろ？ カードは持ち主の魂にしか応えてくれないのでだから。

続

## Act 1 レーシングデュエル（後書き）

まだ書き始めたばかりなので不慣れなところがあります。どうかお許しを。では、次話もよろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9264z/>

---

遊戯王 Speedcross

2011年12月31日21時45分発行